

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4270300363
法人名	医療法人 済家会
事業所名	グループホーム ふれあい
所在地	〒855-0866 長崎県島原市南下川尻町8189 - 2 (電 話) 0957 - 64 - 3663

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月10日	評価確定日	平成21年3月17日

【情報提供票より】(H20年 12月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13 年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 5.2 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり	1,000 円	

(4)利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低 76 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	柴田長庚堂病院・島原保養院・喜多歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

専門医による認知症ケア病棟を有する法人母体となる病院に併設された当ホームは、入居者、家族の安心と信頼を多く寄せられている。日常の健康管理はもちろん認知症ケアに関しての医師の助言、病院の栄養士からのアドバイスなどもあり、急変時には協力医の対応も迅速になされている。法人内研修において各職員の研鑽を積む機会もあり、医療のバックアップのもと基本理念「老いても、障害を持っても自分らしく暮らせるように」に沿って、日々スタッフは支援に努めている。地域密着型サービスとして地域との交流にも前向きに取り組み、地元自治会とは交流、連携がなされ、更に前進させるべく地域貢献の為に認知症に関する啓蒙を図り、相談などにも対応できるようにしていきたいというビジョンも管理者は語られている。入居者の状態変化や入退居と共にホーム内の状況も変化が伴い、支援のあり方について振り返りながら質の向上に向けての改善を強く意識されていることに、今後ますます期待できるホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善計画シートを作成し、計画内容、評価と真摯に改善に向けて取り組むプロセスがうかがえた。記録についてはスタッフ間で検討がなされたが、まだ取り組みが十分といえず改善に到っていないことは訪問調査時のヒヤリングにおいても述べられ、改善にむけての取り組み継続を示された。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で、主に夜勤帯の時間を利用して、日々の支援を振り返り、気づきを挙げて記述する方法で取り組んだ。記入方法、項目内容について理解がよくなされていない点があり、職員と共に再確認していきたいと管理者は述べられた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回、家族代表、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、職員を参加メンバーとして会議を開催している。活動報告、入居者の状態報告がなされ、メンバーより意見、助言、評価を頂いている。入居者に参加いただくこともあり、昨年11月の会議は、家族会の会合から引き続き6名の家族が参加され、運営推進会議の意義を理解していただけるよい機会となった。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年2回春と秋に、家族会を開催し、家族との交流や情報交換、意見、要望聴取の機会としている。昨秋の会合で、引き続き運営推進会議に参加いただけたことは有意義な取り組みであった。日常的にも家族からの意見傾聴を忘れることなく「スタッフの都合で動いていないか」を念頭に、面会の際にはお尋ねしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、行事、活動を通じ交流がなされている。回覧板にてホーム便りを紹介し記事の中に介護や認知症に関するコラムを掲載し、情報提供や啓蒙に配慮している。更に地域との継続的な幅広い交流を目指し、懸案の保育園との交流や、法人と連携した取り組みとして地域住民にむけての「認知症サポーター養成講座」も取り組んで行きたいと、意欲的にホームからの発信にも取り組む方向である。

特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「老いても、障害を持っても自分らしく暮らせるように」を基本理念として、加えて「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援する」と地域密着型サービスに重点を置いてホームとしての取り組み、入居者の支援に反映されるよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所、廊下などスタッフや外来者も目に付くところに理念を掲示し、意識付けと理念の表明がなされている。現在、自立度が高い入居者がおられ、積極的に家事などに関わられる姿が他の入居者にも刺激となっており、理念に沿った「その人らしい」暮らしかたを再考し支援にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し行事、活動を通じ交流がなされている。回覧板にてホーム便りを紹介し、記事の中に介護や認知症に関わるコラムを掲載するなど啓蒙にも配慮している。更に継続的な幅広い地域との交流を目指し、懸案の保育園との交流や、法人と連携した取り組みとして地域に向けての「認知症サポーター養成講座」も取り組んでいきたいと、意欲的にホームからの発信にも取り組む方向である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で、主に夜勤帯の時間を利用して気づきを記入する方法で取り組んだ。記入方法、項目内容の理解がよくなされていない点があり、評価の意義と活用方法に関して再度職員の意識付けを行いたいと管理者は意向を示された。	○	項目内容の理解と日々の支援の振り返りは、職員育成の場としても捉え、個々の職員が自身のレベルアップを考慮し自己評価に取り組んでいけることが望まれる。また、評価の内容がWAMNETに掲載される意味やその活用方法、改善計画シートを用いての全員による改善への取り組みなど、評価の結果をサービスの質の向上に繋げることを再確認されることに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回家族代表、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、管理者、職員を参加メンバーとして開催している。ホームの活動状況、入居者の状況報告がなされ、参加メンバーより意見、助言、評価を得ている。入居者に参加いただくこともあり、昨年11月の会議は家族会から引き続き会議に6名の家族が参加し、運営推進会議の意義を理解いただけるよい機会となった。		

グループホーム ふれあい

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とはホーム単独での連携をとる機会は少ないが、連絡協議会などのネットワークを介してその活動に際し連携を図り、行政との協働のもとホームの質の向上に活かしたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを毎月発行しており、行事や日常の様子が写真と共に伝えられている。加えてケアに関する情報なども掲載され、見易く充実した紙面である。個別の近況報告は、面会時或いは電話で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、春と秋に家族会を開催し、家族との交流や情報交換、要望、意見聴取の機会としている。昨秋の会合では引き続き運営推進会議にも参加していただけたことは有意義な取り組みであった。日常的にも家族からの意見傾聴の姿勢を忘れることなく「スタッフの都合で動いていないか」を念頭に、面会の際はお尋ねしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内においてもホームを含めた異動はなく、離職も殆どなく、馴染みの職員による支援がなされている。法人内の認知症ケア病棟の職員とは連携、交流をはかっており、入居者が病棟へ移行された際も安心して支援が受けられる配慮となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修としては院内研修が年間を通して行われ、計画的に学びの機会を得られる。外部研修に関してはグループホーム連絡協議会による勉強会が毎月開催されており、管理者は内部、外部いずれも職員の参加が積極的になされるよう勤務調整の配慮をしている。研修参加後はホーム内のケア会議で報告され情報共有もなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入しているが、管理者レベルと違い職員間交流は少ない為、管理者は今後の職員育成を考慮して、協議会の会合の場などに職員を同行し、同業者と交流し情報を得ること、視野を広げることの大切さを伝えるようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今年度視覚障害があられる方が入居希望ということで、支援について全職員で慎重に話し合い受け入れに至っており、ホームの暮らしに馴染んでいただいている。同じく昨秋入居された方も帰宅願望が強くあられたが、生活歴を考慮し、なるべく室内にこもらず希望に沿って外出することでストレスをためないようにして少しずつ馴染んでいただくよう努めた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム内でお亡くなりになられた入居者は初めてだった為、職員が心身共に影響を受けていた折に、他の入居者が察するように「大変やなあ」とねぎらいの言葉をかけてくださり癒された思いだった。また、会話、発語が少ない入居者に対して声かけに努めていたある日、「ありがとう」の一言を言って下さったことを職員は嬉しく思ったこともあった。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者基本情報に日常の気づきや本人の意向を加え、半年毎に見直しをおこなっており、状態変化に応じて随時取り直しもおこなっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回のケア会議において職員全員で気づきを挙げてプラン作成をおこなっている。本人、家族の意向に加え、法人内に認知症専門医もいることから医療的なアドバイスもいただいている。	○	日々の記録は、プランの目標が反映され、入居者の様子、対応、結果、気づきとモニタリングを更に意識したものに取り組まれていることが望まれる。それにより個々の入居者に対する評価、見直しが効果的におこなわれることに期待したい。また、基本情報、プラン、記録のファイリングのあり方を、緊急時の重要持ち出し品を意識して工夫されることも望ましい。
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(3ヶ月に1回)や状態変化に伴う見直しを実施している。改善目標として挙げていたプランに沿った記録のあり方には取り組むことができたが、気づきから評価に到る記録としては不十分であり継続して取り組みたいとしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の理学、作業療法士によるリハビリが月に1回行われており、支援にあたる職員にとっても学びの機会となっている。法人母体が医療機関ということで医療連携や次の段階における施設について相談可能であり家族の安心が得られている。また、外泊時の送迎支援、通院支援もおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への継続した受診支援をおこなっている。通院支援もなされ、受診結果は毎回家族へ電話でお知らせしている。変化があられた場合は、家族同行を求め、状況把握をして頂くようにしている。協力医療機関からは2ヶ月に1回、血液検査による健康管理もおこなわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	併設病院もあり、認知症病棟とは連携体制がとられ夜間体制のマニュアルも作られている。今年に入ってから重度化、終末期に向けた見極めが必要な事例があり、家族は当初ホームでの対応を希望していたが、職員の夜間体制に対する不安(他に介護度の高い入居者あり、見守りが困難)があり、医療機関と家族の話し合いの結果、退居、認知症病棟へ移行された。今後も三者間の協議で対応する方向である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけにおいては、例えば排泄に関する表現はその方の理解しやすい言葉を選び、自尊心の強い方、繊細な方には皆の前では直接お名前を出さないなど個々にあった配慮をしている。おむつはなるべく人目につかない場所に収納したり、ポータブルを居室に置かれている場合は衝立で直接見えなくする配慮もしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	制限することなく入居者の希望に沿った支援に努めているが、ことに午前中は対応可能な為、外出の意向がえられる入居者には外出の支援をしている。		

グループホーム ふれあい

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設病院から調理した状態で運ばれているが、おやつは入居者も共に手作りで楽しまれ、食器洗いなど片付けは積極的にされている。今年始めの誤嚥の事例を受けて、入居者の食事の際の様子に細心の配慮をするがあまりに、多少声かけがナーバスになる点にも注意しつつ、楽しく共に食事する支援に心がけている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	冬期は原則1日おきの入浴支援としているが、毎日でも入浴できる準備はされており、希望に沿った柔軟な対応が可能である。車椅子対応の為、脱衣場入り口に今年度スロープが設置され、周辺も整理することで支援がスムーズに出来るようになった。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自立度の高い方もおられその方に他の入居者が影響される部分もあり、食器洗い、小物の洗濯、ゴミだし、モップかけ、花壇の水遣り、他の入居者の介助など、各自の能力を発揮しておられる。「掃除の日」には各自雑巾を持って畳拭き、窓拭きをおこなっている。レクリエーションも楽しんでおられ、脳トレにも取り組んでおられる。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や姉妹宅への訪問、馴染みの美容室へ通うなど、入居者の希望に沿った日常の外出支援をおこなっている。近くの公園では子供達の姿を楽しみにされる入居者も多く、しばしば出かけている。併設病院の車を借りて、初詣、花見など、全員での遠出の外出もおこなっており、春の「初市」には入居者が楽しみにされる外食も伴った外出を計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に日中施錠はされていないが、リビング、事務室からは見守りが困難な点もあり、玄関にセンサーを設置し安全に配慮している。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署立会いのもとの避難訓練の他、月1回の火元を想定した自主訓練をおこなっている。消防団による地域連携もなされ併設病院との合同訓練もおこなっている。		

グループホーム ふれあい

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下、咀嚼に支援が必要な方にも出来る限り食べ物の形を損ねることなく目でも食事を楽しんで頂きたいとの思いから、栄養士と相談し、誤嚥に最大限配慮しとろみによる形態食、汁物を1品多くするなどの希望を伝え対応してもらった。美味しくかつ安全に召し上がって頂く為、汁物の具材も別に持ってきてもらい、入居者の状態に合わせて食べやすい形に入れるというきめ細かな支援もホームでおこなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病棟を改修しているため構造上改良が困難で、リビング兼食堂はやや手狭ではあるが、その故にテーブルを中心にした会話や食事の際は家族的な和気あいあいとした雰囲気を感じられる。隣り合った和室も寛げるようなしつらえに配慮されている。建物中央の長い廊下は椅子が並べられ、移動時の休憩や入居者同士のおしゃべり、独り居の場として活用されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	元は病室ということでスペースは広く、備え付けの洗面台、吊り戸棚がある。掃きだしの窓際に敷かれた畳によって居室としての落ち着いた雰囲気が感じられ、タンス、テーブル、テレビ、調度品など持ち込みの品物で「その人らしい」部屋作りの支援がなされている。		